

## 10. 申し込みと結果通知

### 10-1 申し込み

日本で受験する人は日本国際教育支援協会に、海外で受験する人は受験する国・地域の実施機関に、願書を提出して申し込みます。申し込みは、受験を予定している国・地域で行う必要があります。それ以外の国・地域での申し込みはできません。なお、申し込みの方法や願書などは、国・地域によって異なりますので、下の各ホームページを参照してください。

日本で受験する人	日本国際教育支援協会 < <a href="http://www.jees.or.jp/jlpt/">http://www.jees.or.jp/jlpt/</a> >
海外で受験する人	国際交流基金 < <a href="http://www.jlpt.jp/">http://www.jlpt.jp/</a> >
台湾で受験する人	財団法人交流協会 < <a href="http://www.koryu.or.jp">http://www.koryu.or.jp</a> >

### 10-2 身体等に障がいがある方の受験

新試験では現行試験と同様に、身体等に障がいのある受験者のために、点字や文字を拡大した問題冊子による試験や、聴解免除などの特別措置を実施します。特別措置については、受験を希望する国・地域の実施機関に問い合わせてください。願書とともに「特別措置申請書」を提出することが必要です。

### 10-3 試験結果の通知方法

試験の結果は、日本国内での受験者には日本国際教育支援協会から、海外での受験者には国際交流基金から各実施機関を通じて通知します。

結果に関する書類は、次の通りです。

可否結果通知書	受験者全員に発行します。
日本語能力認定書	合格者に発行します。
認定結果及び成績に関する証明書	受験者のうち、所定の手続きを行った希望者に発行します。

## 11. よくある質問

### 11-1 新試験について

**Q1** 新試験は年に何回実施されますか。

**A1** 7月と12月の2回です。ただし、海外では7月の試験を実施しない国・地域があります。詳しくは、国際交流基金のホームページ〈<http://www.jlpt.jp/>〉に掲載します。

**Q2** 新試験の日は決まっていますか。

**A2** 7月と12月の初旬の日曜日に行います。

**Q3** 新試験はどこで受けられますか。

**A3** 日本で受験する人は日本国際教育支援協会のホームページ〈<http://www.jees.or.jp/jlpt/>〉をご覧ください。海外で受験する人は、国際交流基金のホームページ〈<http://www.jlpt.jp/>〉の「お知らせ」⇒「海外の実施機関」⇒「リスト」から試験を実施している都市を調べることができます。また、台湾で受験する人は財団法人交流協会のホームページ〈<http://www.koryu.or.jp/>〉をご覧ください。

**Q4** 新試験の主催者はどこですか。

**A4** 現行試験と同様に国際交流基金と日本国際教育支援協会です。

**Q5** 新試験の試験問題の著作権は、誰が所有しますか。

**A5** 現行試験と同様に、全ての問題の著作権は、主催者の国際交流基金と日本国際教育支援協会が所有します。

## 11-2 レベルについて

**Q6** 受験するレベルはどのように決めればいいですか。

**A6** 本ガイドブックの8ページ表1『新しい「日本語能力試験」 認定の目安』や『新しい「日本語能力試験」問題例集』を参考にしてください。また、現行試験の級も手がかりになります。具体的には下の通りです。

<b>N1</b>	現行試験の1級よりやや高めのレベルまで測れるようになります。合格ラインは現行試験とほぼ同じです。
<b>N2</b>	現行試験の2級とほぼ同じレベルです。
<b>N3</b>	現行試験の2級と3級の間レベルです。 <b>(新設)</b>
<b>N4</b>	現行試験の3級とほぼ同じレベルです。
<b>N5</b>	現行試験の4級とほぼ同じレベルです。

**Q7** 新しくできる**N3**はどのようなレベルですか。

**A7** 現行試験の2級と3級の間レベルで、「日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる」レベルです。「幅広い場面での日本語」の理解を測る**N1**、**N2**と、教室内で学ぶ「基本的な日本語」の理解を測る**N4**、**N5**の、「橋渡し」のレベルと位置づけています。詳しくは7~8ページの「2. 認定の目安」を参照してください。

## 11-3 試験問題について

**Q8** 新試験にはどのような問題が出題されますか。

**A8** 各レベルの問題の構成とねらいは18~24ページ「7. 新試験の構成と大問のねらい」に、具体的な問題の例は『新しい「日本語能力試験」問題例集』に示していますので、参照してください。

**Q9** 新試験では、現行試験のように前年に実施した試験の問題集が出版されますか。

**A9** いいえ。前年に実施した試験の問題をすべて掲載した問題集は出版しません。『新しい「日本語能力試験」問題例集』がありますので、練習問題として活用してください。この『新しい「日本語能力試験」問題例集』は、実際に出題する試験問題と同形式の問題で構成しています。また、2012年には、2010年と2011年に出題した問題の一部をこの『新しい「日本語能力試験」問題例集』に加えて編集し、試験1回分の問題数に相当する形で新たに問題例集として発行します。その後は一定期間ごとに、実際に出題した試験問題を使って問題集を発行していく予定です。

**Q10** 全ての受験者が同じ試験問題を受けるのですか。

**A10** いいえ。レベルによって試験問題が異なります。レベルで試験問題を分けるのは、可能な限り正確に、その人の日本語能力を測定するためです。自分に合ったレベルを受験してください。

**Q11** 試験問題は当日の試験終了後、持ち帰ることができますか。

**A11** いいえ。現行試験と同様、持ち帰ることはできません。

**Q12** N1とN2の試験科目「言語知識（文字・語彙・文法）・読解」が、N3、N4、N5で「言語知識（文字・語彙）」と「言語知識（文法）・読解」の二つに分かれているのはなぜですか。

**A12** N3、N4、N5では、試験に出題できる語彙や文法の項目が少ないため、N1とN2のように「言語知識（文字・語彙・文法）・読解」の一つの試験科目にまとめると、いくつかの問題がほかの問題のヒントになることがあるためです。

**Q13** 新試験では、日本に関する文化的な知識が必要な問題が出題されますか。

**A13** 日本に関する文化的な知識そのものを問う問題はありません。文化的な内容が問題に含まれる場合もありますが、その知識がなければ解答できないような問題は出題しません。

**Q14** 新試験には、作文試験や会話試験がありますか。

**A14** 現段階ではどちらもありません。

## 11-4 語彙や漢字、文法項目のリストについて

**Q15** 新試験では、現行試験のような『出題基準』は出版されますか。

**A15** いいえ。語彙や漢字、文法項目のリストが掲載された『出題基準』は、新試験では出版しません。

**Q16** 『出題基準』を出版しないのは、どうしてですか。

**A16** 日本語学習の最終目標は、語彙や漢字、文法項目の暗記ではなく、それらをコミュニケーションの手段として実際に利用できるようになることだと考えます。新試験では「日本語の文字・語彙・文法といった言語知識」とともに、「その言語知識を利用して、コミュニケーション上の課題を遂行する能力」を測ります。したがって、語彙や漢字、文法項目のリストが掲載された『出題基準』の出版は必ずしも適切ではないと判断しました。

**Q17** 新試験を受験する人を教えるために、『出題基準』に代わる情報はありますか。

**A17** 各レベルの認定の目安と、問題の構成、『新しい「日本語能力試験」問題例集』の問題例があります。認定の目安は7~8ページ「2. 認定の目安」の通りです。問題の構成は18~24ページ「7. 新試験の構成と大問のねらい」を参照してください。

また、新試験のレベルは現行試験の級と下のように対応していますので、現行試験の問題や『出題基準』も手がかりになります。

<b>N1</b>	現行試験の1級よりやや高めのレベルまで測れるようになります。合格ラインは現行試験とほぼ同じです。
<b>N2</b>	現行試験の2級とほぼ同じレベルです。
<b>N3</b>	現行試験の2級と3級間のレベルです。 <b>(新設)</b>
<b>N4</b>	現行試験の3級とほぼ同じレベルです。
<b>N5</b>	現行試験の4級とほぼ同じレベルです。

**Q18** 新試験の語彙や漢字、文法項目のリストはどのように作られたものですか。

**A18** 「課題遂行のための言語コミュニケーション能力を測る」という観点から、日本人の実際の言語使用に基づいて、複数の日本語教育専門家が選びました。書き言葉と話し言葉のバランスに配慮すると同時に、日本語の表現を豊かにする外来語やオノマトペなどを充実させました。

## 11-5 申し込み、受験の手続きについて

**Q19** 試験科目の一部だけを申し込むことができますか。

**A19** いいえ、できません。

**Q20** 受験しない試験科目があったら、どうなりますか。

**A20** すべての試験科目を受験しなかった場合には、合否判定を行いません。9ページ「3. 試験科目」と、10ページからの「4. 試験の結果」を参照してください。

**Q21** 申し込みのとき、試験を受けたい国・地域にいませんが、どうしたらいいですか。

**A21** 必ず受験する国・地域の実施機関に申し込みをしてください。受験する国・地域によって申し込みの方法が異なりますので、現地の実施機関に問い合わせてください。

**Q22** 小学生、中学生でも受験ができますか。

**A22** はい、できます。年齢制限はありません。

**Q23** 身体等に障がいがありますが、受験できますか。

**A23** はい、できます。受験をする国・地域の実施機関に問い合わせてください。59ページ「10-2 身体等に障がいがある方の受験」も参照してください。

**11-6 試験の結果について**

**Q24** 新試験の得点と現行試験の得点を比べることができますか。

**A24** いいえ。新試験では試験科目や得点の出し方やなどが変わりますので、現行試験の得点と比べることはできません。

**Q25** 試験の結果を受け取るとき、N1、N2、N3では得点区分が「言語知識(文字・語彙・文法)」と「読解」に分かれていますが、N4、N5では「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」のひとつだけになっています。どうしてですか。

**A25** 日本語学習の基礎段階にあるN4、N5では、「言語知識」と「読解」の能力で重なる部分が多いので、「読解」だけの得点を出すよりも、「言語知識」と合わせて得点を出すことが学習段階の特徴に合っていると考えるためです。

**Q26** 新試験の得点は、どうして「素点」ではなく「尺度得点」で表示するのですか。

**A26** 「尺度得点」で表示するのは、異なる実施回の得点を共通の尺度上で比較ができるようにするためです。異なる時期に実施される試験では出題される問題が異なるので、どんなに慎重に作成しても、試験の難易度は多少変動してしまいます。「尺度得点」で表示すると、得点が試験の難易度の影響を受けなくなります。詳しい説明は、16ページ「5. 得点等化」を参照してください。

**Q27** 得点区分別得点の最高点が60点または120点という設定になっているのはどうしてですか。

**A27** 新試験では、項目応答理論に基づく尺度得点表示を行うこととし、検討の結果、このような得点範囲となりました。

現行試験では、各科目の最高点が100点または200点でしたが、例えば、英語の試験のTOEFLでは各セクションの得点が0～30点、総合得点が0～120点の範囲となっているように、最高点が100点または200点ではない外国語の試験は少なくありません。

**Q28** N1に合格した人は、日本語で実際にどのようなことができるのですか。

**A28** 新試験では、各レベルの合格者が日本語でどのような言語行動ができると「考えているか」を調査した結果をまとめた「日本語能力試験Can-do リスト」(仮称)を提供します。このリストを参照することで、合格者本人やまわりの人々が、試験の結果をより具体的に解釈できるようになります。詳しい説明は、17ページ『6.「日本語能力試験Can-do リスト」(仮称)』を参照してください。

**Q29** 新試験の結果に有効期限はありますか。

**A29** 有効期限はありませんが、試験の結果を参考にする企業や教育機関が期限を設けている場合があります。

**Q30** 現行試験に合格していますが、新試験が実施されたら、現行試験の認定は無効になりますか。

**A30** いいえ、無効にはなりません。

**Q31** 新試験の結果は、日本の大学で入学試験の参考資料として使われますか。

**A31** 日本の大学では、原則として独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」〈<http://www.jasso.go.jp/eju/index.html>〉の結果を参考にしています。「日本留学試験」を実施していない国・地域からの留学生のために、日本語能力試験の結果を参考にする場合もあります。詳しいことは志望校に直接問い合わせてください。

## 11-7 証明書等の発行について

**Q32** 勤務先から日本語能力を公的に証明できる書類の提出を求められました。過去の受験結果について、証明書の発行が受けられますか。

**A32** 所定の手続きを行えば、希望者には「認定結果および成績に関する証明書」を発行しています。日本で受験した人は日本国際教育支援協会のホームページ〈<http://www.jees.or.jp/jlpt/>〉をご覧ください。海外で受験した人は、国際交流基金のホームページ〈<http://www.jlpt.jp/>〉、台湾で受験した人は財団法人交流協会のホームページ〈<http://www.koryu.or.jp/>〉を見て下さい。59ページ「10-3 試験結果の通知方法」も参照してください。

**11-8** そのほか

**Q33** 新試験のレベルの呼び方「N」はどのような意味ですか。

**A33** 「N」は「Nihongo (日本語)」、「New (新しい)」を表します。

**Q34** 今後、新試験の情報はどこでわかりますか。

**A34** 日本語能力試験のホームページで随時更新を行いますので、〈<http://www.jlpt.jp/>〉に掲載される内容を参照してください。

## 12. 新試験と現行試験の比較

表13は、新試験の主な内容を現行試験と対照してまとめたものです。

■ 表13 新試験と現行試験対照表

	現行試験 (1984年～2009年)	新試験 (2010年～)	ガイドブック 参照ページ
実施回数	1年に1回 <sup>*10</sup>	1年に2回 <sup>*11</sup>	—
対象者	〈変更なし〉 原則として日本語を母語としない幅広い層の人を対象とする。		4
級、レベル	1級～4級の4段階	<b>N1～N5</b> の5段階 <sup>*12</sup>	4
級、レベルの設定	文法、漢字、語彙の程度、学習時間をもとに認定基準を設定。	「読む」「聞く」という言語行動で表した認定の目安を設定 <sup>*13</sup> 。	4
試験科目	全級を通じて「文字・語彙」「聴解」「読解・文法」の3科目。	<b>N1</b> と <b>N2</b> では「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」「聴解」の順番に2科目。 <b>N3、N4、N5</b> では「言語知識(文字・語彙)」「言語知識(文法)・読解」「聴解」の3科目。	8
試験時間 <sup>*14</sup>	〈合計〉 1級 — 180分 2級 — 145分 3級 — 140分 4級 — 100分	〈合計〉 <b>N1</b> — 170分 <b>N2</b> — 155分 <b>N3</b> — 140分 <b>N4</b> — 125分 <b>N5</b> — 105分	9 72

\*10：2009年は、一部の国・地域で1級と2級を年2回実施します。

\*11：海外では7月の試験を実施しない国・地域があります。

\*12：2010年7月は**N1～N3**のみの実施となります。

\*13：8ページ表1『新しい「日本語能力試験」 認定の目安』を参照してください。

\*14：試験科目別の時間は、71ページ表14「レベル・試験科目・試験時間対照表」を参照してください。

	現行試験 (1984年～2009年)	新試験 (2010年～)	ガイドブック 参照ページ
『出題基準』	出題の目安として語彙や漢字、文法項目のリストなどを掲載した『出題基準』を出版。	『出題基準』は出版しないが、試験の構成と大問のねらい、試験問題の例などを提供。	18～24
試験問題	前年度の試験問題を、翌年4月に出版 <sup>*15</sup> 。	実際に出題した試験問題の中から試験1回分の問題数に相当する問題集を一定期間ごとに発行。	『新しい「日本語能力試験」問題例集』
試験分析の結果	『日本語能力試験 分析評価に関する報告書』を発行 <sup>*16</sup> 。	内容は未定だが発行の予定。	—
受験特別措置 (身体等に障がいがある受験者向け)	〈変更なし〉 「特別措置申請書」を願書とともに提出し申し込みを行う。点字や文字を拡大した問題冊子による試験や、聴解免除などの特別措置を実施。		59
Can-doリスト	なし	あり。成績解釈のために各レベルの合格者ができると考えている具体的な言語行動例のリスト「日本語能力試験 Can-doリスト」(仮称)を提供。	5 17

\*15：1989年の試験問題から発行されました。

\*16：1990年の試験結果から発行されました。

	現行試験 (1984年～2009年)	新試験 (2010年～)	ガイドブック 参照ページ
試験の形式	〈変更なし〉 マークシート方式による多枝選択型客観テスト。 級・レベル別に問題が異なる。		6
合否判定基準	1級 280点／400点(70%) 2級～4級 240点／400点(60%) 総合得点の得点率で判定。	総合得点と得点区分別得点 の二つで判定。得点区分別 得点の基準点(少なくともこ れ以上が必要という得点)を 設定。詳細は2010年に発表。	11
得点等化	なし <sup>*17</sup>	あり	16
点数表示	素点	尺度得点	10
試験結果の 通知方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合否結果通知書</li> <li>● 日本語能力認定書</li> <li>● 認定結果および成績に関する証明書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合否結果通知書</li> <li>● 日本語能力認定書</li> <li>● 認定結果および成績に関する証明書</li> </ul> *記載内容は改定に基づき変更の予定。	12 59

\*17：合格ライン決定に際しては、実際の得点分布をふまえた難易度分析などの統計処理を実施しています。

■ 表 14 レベル・試験科目・試験時間対照表

## 〈新試験〉

レベル	試験科目 (試験時間)			試験時間合計
N1	言語知識 (文字・語彙・文法)・読解 (110分)		聴解 (60分)	170分
N2	言語知識 (文字・語彙・文法)・読解 (105分)		聴解 (50分)	155分
N3	言語知識 (文字・語彙) (30分)	言語知識 (文法)・読解 (70分)	聴解 (40分)	140分
N4	言語知識 (文字・語彙) (30分)	言語知識 (文法)・読解 (60分)	聴解 (35分)	125分
N5	言語知識 (文字・語彙) (25分)	言語知識 (文法)・読解 (50分)	聴解 (30分)	105分

\* 試験時間は変更される場合があります。

## 〈現行試験〉

レベル	試験科目 (試験時間)			試験時間合計
1級	文字・語彙 (45分)	聴解 (45分)	読解・文法 (90分)	180分
2級	文字・語彙 (35分)	聴解 (40分)	読解・文法 (70分)	145分
3級	文字・語彙 (35分)	聴解 (35分)	読解・文法 (70分)	140分
4級	文字・語彙 (25分)	聴解 (25分)	読解・文法 (50分)	100分

\* 新試験のレベルと現行試験の級の対応は、4ページ「1-2 改定のポイント ②レベルを4段階から5段階に増やします」の通りです。

\* 各試験科目の間には休憩時間があります。

\* 「聴解」は、試験問題の録音の長さによって試験時間が多少変わります。